

トマト（ハウス無加温）

1 栽培のポイント

- ☆育苗～生育初期は低温・寡日照の時期であるため、温度管理が重要
- ☆梅雨時期を経過して収穫するので、防除や追肥、整枝等は草勢に応じた管理を行う
- ☆夏場30℃を超えると着果が劣るため、高温対策が必要

2 作型(ハウス無加温早熟栽培)

品 種	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
みそら64、麗月 桃太郎ヨーク									

3 苗の準備

- 購入苗の利用が便利である。
- 自家育苗する場合
 - ア 一斉発芽させるために温床線等を利用し、は種床を25～28℃で管理する。発芽が揃ったら徐々に温度を下げていき、茎が伸びすぎないように注意する。
 - イ 本葉1.5～2葉になったら、12～15cmポットに鉢上げする。
 - ウ 生育に応じ鉢間隔を広げて隣の葉と重ならないように、特に5葉期以降は生育が早いので注意する。
 - エ 温度・水分管理の目安…管理の良否が初期収量に影響

	仮植後（本葉2枚）	活着確認後	定植前（本葉7枚）
昼 温	18～24℃	15～28℃	25℃換気
夜 温	15℃程度	10～12℃	10～12℃
地 温	20℃程度	15～20℃	15～18℃
鉢水分	高め	低め	絞り込み
日 数	4～5日	15～20日	5～7日

4 本畑準備の作業手順

消雪促進→消雪水排除→ハウス骨組み補修→ビニール被覆→（定植10日前）→土壤乾燥→基肥→耕うん→うね立て→かん水パイプ設置→植穴掘→植穴かん水→マルチ・トンネル被覆（定植3日前まで）

5 施肥(kg/a)

肥 料 名	基肥	追肥	成 分 量			備 考
			N	P	K	
完熟堆肥	500					基肥 深耕し下層土によく混和 追肥 第1花房の果実が鶏卵大以降、1回3kg
消石灰	20					
高度化成	6		0.9	0.9	0.9	
なたね粕	10		0.5	0.2	0.1	
液肥		15	1.5	1.5	1.5	
合 計			2.9	1.7	2.2	

6 定植

- (1) 定植期 第1花房1～2花開花した苗、最低地温12℃を確保すること。
- (2) 定植作業 苗床でかん水(植付当日)→本畑運搬→マルチ穴開け→植付(浅植)
- (3) 栽植密度 3.3㎡当たり8株、1アール当たり240株
例) うね幅180cm×株間22.5cm×1条、うね幅225cm×株間36cm×1条

7 本畑管理

- (1) 温度管理
 - ア 日中のハウス内温度は25～28℃を基準に管理し、30℃以上に上げないよう換気する。
 - イ 最低地温は12～15℃を確保する。
 - ウ 夜間温度不足の場合は、内張カーテン、2重トンネル等で保温に努める。
- (2) かん水
 - ア 定植直後の株元かん水は地温を下げるので水温に注意する(ぬるま湯かん水)。
 - イ しおれがすすむ場合は遮光資材をかける。
 - ウ 第3花房開花期まで極力かん水を控え、それ以降草勢と果実の肥大を見ながらかん水を行なう。かん水時間は、晴天日の午前とする。
- (3) 追肥
 - ア 1番果が鶏卵大頃から草勢を見ながら10～14日間隔で施用する。
 - イ 最終追肥時期は、最終段花房着果時期とする。液肥での追肥が効果的である。
- (4) ホルモン処理
 - ア 着果を確実にするため収穫を対象とする全花房に処理する。
 - イ 濃度は低温時で高く、高温時で低くする。なお、高温時の処理は早朝か夕方の涼しい時に行なう。
- (5) 摘果
 - ・1花房4～5果。草勢が弱い場合は3果前後、強い場合は5～6果に摘果し、調整する。
- (6) 摘芽・摘芯・摘葉
 - ア 各花房直下の強いわき芽は、遅れないように取り除く。
 - イ 収穫を対象とする花房の上位3葉を残して遅れないように摘芯する。
 - ウ 芽かきや摘芯の傷口が大きいと病害の原因となるので、早期作業で傷口を極力小さくする。また、作業は必ず晴天の日中行ない傷口を早く乾かす。
 - エ 下位の古葉から徐々に摘葉し、葉が混んでいる場合は受光体制が悪くなるので日影の葉を摘除する。
- (7) 敷きわら
 - ・夏期の地温上昇や乾燥を防ぐため、梅雨明け前からマルチ上に厚くわらを敷き、通路にもわらやモミガラを敷く。

8 病害虫防除

- (1) 病害
 - ア かいよう病、斑点細菌病、軟腐病は、葉の枯れた部分やわき芽の切口から侵入し、発病するので、傷口を最小限に抑える。
 - イ 葉かび病は着果量が多くなり樹勢が弱くなると発生する。
 - ウ 灰色かび病は湿度が高くなると発生する。
- (2) 虫害
 - ・アブラムシ類、アザミウマ類、オオタバコガなど早期防除に努める。
- (3) ほ場をよく観察し、早期発見・早期防除を心がける。

9 収穫

- (1) 時期ごとにカラーチャートなどを参考に収穫時期を判断する。
- (2) 果実温が高いと日持ちが悪くなるので、涼しい時間に収穫する。